

価値観を、ゆさぶれ!

山

崎先生の所属している「アドミッションセンター」は、ど

のように香大を広報していくかを考え、高校生たちに香川大学という大学を知ってもらうことを仕事としています。となると、やっぱり活動は大学の外がメインに。昨年は1年に92回、今年は11月の段階で既に80回以上も香大について講演や説明を行っているという山崎先生、忙しすぎて香大にいるのは週に1日2日程度なんだそうです。

大学の説明というと、学校のいいところを宣伝するんですよね? そう尋ねると、返ってきたのは予想外の答えでした。

「受験『だけ』、香大『だけ』の話はしません。香大以外の選択肢も紹介することで、はじめて香大の価値を紹介できるんです」

もともとベネッセで、日本中の大学の偏差値をつけてきた山崎先生。過去には「受験校決定ガイド」の編集長や高校の教員が読む進路指導本の編集長も勤めてきた、言ってみれば受験と大

学のプロ。偏差値の便利さも、その限

界も知っています。それぞれの生徒にとって「いい」大学は、偏差値の「いい」と必ずしもイコールではない。だからこそ、様々なモノサシを紹介することにも力を注ぐのです。例えば、高校の進路指導室によくある「2007年 大学ランキング」。これは、1994年に先生と朝日新聞が共同で作ったもの。研究、就職、資格、環境、費用などの様々な面から見た大学の姿が紹介されています。

「大学選びは、まず『大学って何だっけ』『どんな大人になりたいの?』と考えることから始まります。高校1、2年で志望大を決めちゃダメ! 高校生は背伸びし続けられ絶対に伸びるんです。1、2年はその子の価値観を揺さぶる時期、3年の夏から収束していけばいいんですよ」

時には、香大にその子の勉強したい学部がないからと他の大学を調べることを勧めることも。これも、各大学が何をやっているか把握してこそで

きることです。

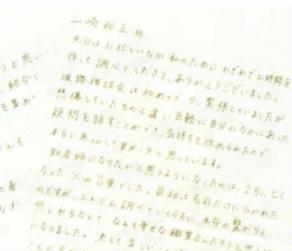
「大学はキャンパスの中だけで完結するのではない。街との関わり、友人、そして身をおく4年間でどう変わっていくか:これも大学の価値なんです。大学で大きく変わることができたら、それはすごくハッピーなことですよ
ね!」

選択肢をたくさん示した上で、最後に「香大がいい!」という子なら大歓迎! その目からウロコの落ちる講演は、高校生だけでなく大人の価値観もゆさぶります。

「入学後に『先生、入りましたよ!』と声をかけてくれる子もいるんです」と、手紙の束を抱えた先生はとても嬉しそう。日本中の大学を探しても、ここまでのことができる人はそうはいません。めぐりめぐって「そういうことができる先生がいる」ということもまた、香川大学の価値を高めているのです。



学生と共に将来や進路を真剣に考えます。



励みとなる全国から届いている感謝の手紙。

『いい』大学って、何が『いい』？

山崎裕正

PROFILE

やまさき やすまさ
アドミッションセンター
准教授